

# 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 清流の国ぎふ芸術祭開催事業費補助金（アート体験）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

環境生活部県民文化局 文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111(内3121)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,933 千円 （前年度予算額： 17,933 千円）

### <財源内訳>

| 区 分 | 事業費    | 財 源 内 訳    |            |            |            |     |     |     |            |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
|     |        | 国 庫<br>支出金 | 分担金<br>負担金 | 使用料<br>手数料 | 財 産<br>収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般<br>財 源 |
| 前年度 | 17,933 | 0          | 0          | 0          | 0          | 0   | 0   | 0   | 17,933     |
| 要求額 | 17,933 | 0          | 0          | 0          | 0          | 0   | 0   | 0   | 17,933     |
| 決定額 | 17,933 | 0          | 0          | 0          | 0          | 0   | 0   | 0   | 17,933     |

## 2 要 求 内 容

### （1）要求の趣旨（現状と課題）

ぎふ美術展、Art Award IN THE CUBE、アート体験プログラムが三位一体となって取り組んできたことで、幅広い世代において創作活動へのきっかけづくりとなり、質の高い作品づくりに寄与してきた。

アート体験プログラムは、参加者が主体的に活動に参加し、参加者同士と一緒に鑑賞したり、協働して作品づくりをしたりすることで、自分一人だけでは得られない刺激を受けることができる。さらに多様なプログラムを複合的・有機的に組み合わせることにより、一層参加者の五感を刺激する体験を提供することが期待できる。

### （2）事業内容

日本を代表する作家・アーティストが参加・体験型のプログラムの講師を務め、一人でも多くの県民が、「アート」や「美術」を身近に感じ、親しみ、楽しむことができるプログラムを提供する。また、参加者と講師、参加者同士をつなぎ、創造的な時間が共有される場となるような活動を実施する。

### （3）県負担・補助率の考え方

岐阜県の文化振興の主要プロジェクトである「清流の国ぎふ芸術祭」の柱の一つとして実施するものであり、国文祭や総文祭の機運を高める意味でも、全額県負担が望ましい。

### （4）類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額     | 事業内容の詳細        |
|------|--------|----------------|
| 旅費   | 152    | 職員旅費           |
| 需用費  | 6      | 文具等消耗品費        |
| 役務費  | 7      | 電話代            |
| 委託料  | 6,358  | 県主催プログラム委託料    |
| 補助金  | 11,410 | (公財) 県教育文化財団補助 |
| 合計   | 17,933 |                |

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 事業主体及びその妥当性

県主催及び、本補助金を受けて、(公財) 岐阜県教育文化財団が事業を実施する。

(公財) 岐阜県教育文化財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

2024年に開催される「第48回全国高等学校総合文化祭」、「清流の国ぎふ文化祭2024」の機運を高めるためにも、文化芸術活動へ主体的に参加できる県民を増やし、人と人、人と作品をつなげ、創造的な時間が生まれる場としての「アート体験プログラムーアートラボぎふー」の認知度を高めていく。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名         | 事業開始前<br>(H29) | R3年度<br>実績 | R4年度<br>目標 | R5年度<br>目標 | 終期目標<br>(R6) | 達成率 |
|-------------|----------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
|             |                |            |            |            |              |     |
| ①<br>講座等参加率 | 0%             | 71%        | 100%       | 100%       | 100%         | 71% |

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 令和<br>2<br>年度              | 「アート体験プログラムーアートラボぎふー」として、美術に対する関心を高めるため、また、知識や技術を向上させる実技講座等を開催している。県内各地で、日本画や写真などの実技講座、美術史にまつわる講義などを行い、県民の方々の美術に関する関心や、見識を深められている。<br>「様々な技能に驚き、刺激になった」「今後絵を見る視点につながった」など意見を頂いている。 |
| 令和<br>3<br>年度              | 「清流の国ぎふ芸術祭」の一つの柱として始まった本事業ではあるが、認知度が年々高まり、前年に参加した方から多数の問い合わせがあったり、中には「ぎふ美術展」に出品する参加者がいたりするなどの効果が見られた。また、日本を代表する作家から直接指導やアドバイスを受けることができ、次の創作活動への意欲を高めたり、自らの可能性を育んだりする場として定着しつつある。   |
| 指標① 目標：100% 実績：71% 達成率：71% |  |
| 令和<br>4<br>年度              | 令和6年度当初予算にて追加  |
| 指標① 目標：100% 実績： 達成率： %     |  |

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

|  |  |
|--|--|
| <b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b><br>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない   |  |
| (評価)<br>3  | 新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったものの、例年定員を超過する人気講座もあり、事業そのものが定着しつつあるため、事業の必要性は高い。 |
| <b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b><br>3：期待以上の成果あり<br>2：期待どおりの成果あり<br>1：期待どおりの成果が得られていない<br>0：ほとんど成果が得られていない |  |
| (評価)<br>3  | 老若男女問わず、幅広い世代での参加が見られる。参加者の中からは、「ぎふ美術展」入賞者が出るなど、相乗的な効果が見られる。         |
| <b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b><br>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている   |  |
| (評価)<br>1  | 県内五圏域での開催ということで、県内の関係諸機関への広報活動に力を入れ、さらに多くの人に対し、魅力的な事業であることをPRしていく。   |

### (今後の課題)

|  |
|--|
| <b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b><br>今後実施の際にはリピーターの意見を参考にしつつ、参加者が固定化していかないよう、新規参加者の開拓にも力を入れる。誰もが活動に参加しやすいよう、各県の実践や大学、美術館で行われているアートプログラムを探り、プログラム内容を弾力的に編成したり、遠隔地の児童生徒を対象にしたワークショップを行ったりするなどして、地域や世代を広げた取り組みを行う。 |
|--|

### (次年度の方向性)

|  |
|--|
| <b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b><br>国文祭2024・総文祭2024の機運を高めるとともに、幅広い世代の県民が文化芸術活動を身近に感じ気兼ねなく参加できるよう、プログラムの構成を工夫したり、活動を範囲を広げたりして継続していくことが必要である。 |
|--|